

平成16年3月11日

各関係機関長 様

高知県病害虫防除所長

病害虫発生予察情報について

病害虫発生予察特殊報第7号を送付します。

平成15年度病害虫発生予察特殊報第7号

平成16年3月11日
高知県病害虫防除所

1. 病名 黄化葉巻病
2. ウイルス名 Tomato yellow leaf curl virus (TYLCV)
3. 発生作物 トマト
4. 発生経過

平成16年2月に高知県土佐市で栽培されているトマトの1ほ場(栽培面積:約0.2ha)で、生長点が萎縮する障害が発生した。高知県病害虫防除所、高知県農業技術センター及び独立行政法人九州沖縄農業研究センターでPCR等により同定を行った結果、黄化葉巻病であることが明らかになった。

本病害は国内では1996年に初めて発見され、現在、東海、九州地方を中心に大きな被害をもたらしている。

5. 病徴

新葉が黄化、退緑しながら巻き込み、後に葉脈の間も黄化して縮葉となる。さらに症状が進むと節間が短縮し、株全体が萎縮症状を示す。発病前に着果した果実は正常に生育するが、発病後は開花数が減少し、開花しても結実しないことが多い。品種による抵抗性はないと思われる。

6. 伝搬方法

シルバーリーフコナジラミ、タバココナジラミによって永続的に伝搬される。経卵伝染については不明である。土壌伝染、種子伝染、汁液伝染はしない。

7. 宿主範囲

自然感染ではトマト、トルコギキョウのほか、雑草であるウシハコベ、エノキグサへの感染も確認されている。また保毒したシルバーリーフコナジラミを用いた接種試験では、トマト、シロバナチヨウセンアサガオ、タバコ、ヒヤクニチソウへの感染が確認されている。

8. 防除対策

- (1) 薬剤によるコナジラミ類の防除を徹底し、また施設栽培では天窓や側窓に防虫網を張り、媒介虫の侵入を防ぐ。
- (2) 施設周辺の雑草は、媒介虫の発生源となるので、徹底した除草を行う。
- (3) 発病株は伝染源となるので見つけ次第早期に抜き取り、土中に埋めるなどの処分を行う。ほ場周辺には放置しない。